

第2回苫小牧市多文化共生指針策定準備会議議事録

○青山副主幹 それでは皆さん、お時間になりましたので、ただいまより第2回苫小牧市多文化共生指針策定準備会議を開催させていただきます。本日は、お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

瀬川委員ですけれども、所用のため、30分程度遅れるとの連絡がありましたので、ご承知おきください。また、本日も都市再生アドバイザーの田村様にご出席いただいております。それでは、早速ですけれども、会議に入らせていただきます。

小田島座長、よろしく願いいたします。

○小田島座長 皆さん、こんにちは。よろしく願いします。第2回目ということで、今日終わったら半分、準備会議終わります。今日は事務局から、ビジョンが事前に皆様にお示しがあつたと思いますので、そういうことで進行していきたいと思います。まず、次第の1、苫小牧市の最新外国人住民状況について、事務局からご説明をお願いします。

○浪岡主査 事務局の浪岡と申します。座って説明させていただきます。よろしく願いいたします。それでは、冒頭に、全体のスケジュールと、市の最新の外国人住民の状況について、簡単に共有させていただきます。

資料の3ページ、ご覧ください。前回もお示しした指針策定に向けた流れを示しております。また、4ページ目には、今年度事業のスケジュールを示しております。現在地としまして、赤の点線で示しておりますが、事業ごとに簡単にご説明させていただきます。

本日が第2回目の準備会議となりまして、記載のテーマについてご議論いただきたいと思っております。アンケート調査については、手法・事務局案の検討した内容を本日の会議でお示しし、9月中旬頃の発送をめどに準備を進めてまいります。

ビジョンについては、先行調査等を踏まえ、事務局で検討した素案を本日の会議でお示しし、議論を重ねた上で、年明けの公表を目指し、進めてまいります。庁内会議・庁内勉強会につきましては、この準備会議に諮った内容の共有を随時行い、秋には一般職向け勉強会を予定しております。また、国際化推進事業として実施している多文化共生に関する具体的な取組も記載をしております。

次に、最新の外国人住民の状況について、簡単に情報を共有させていただきます。今後とも会議の際には、委員の皆様へ最新の情報を共有させていただきます。

資料の6ページをご覧ください。外国人住民数は6月末現在で1,182人、外国人住民の割合は0.71%となっております。7ページには、道内の様子を示しておりますが、北海道全体でも外国人数は増加してございまして、6月末時点で道内4番目の外国人住民数となっております。8ページ、9ページには、在留資格、国籍の様子を示しておりますが、この2か月ほどでネパールやミャンマー国籍の方が大きく増えており、在留資格では留学や技能実習が増えております。いずれにしても、前回の会議で共有した4月末時点の状況から、外国人住民数、割合ともに大きく増加しており、国籍、在留資格の多様化がさ

らに進んでいる状況でございます。

簡単ではありますが、以上で説明を終わります。

○小田島座長 ありがとうございます。

今の情報共有に関しまして、何か皆様から質問等ございますか。

参考までに、私もいつも多文化共生に携わっているものですから、外国人のデータというのは定期的に見ているのですが、北海道全体でも、国籍の多い少ないに変化が出てきていまして、最近増えているのが、北海道全体ではインドネシアがすごく増えています。北海道国際交流・協力総合センターに設置している外国人相談センターを立ち上げたときは、インドネシアはまだ北海道の中では少ないほうの国籍だったのですが、実は最新のデータでは、道内で4番目に多い国籍まで増えてきています。地方の実習生ですとか特定技能で特にインドネシアの方が増えていまして、私の友人も札幌市にしばらく住んでいたのですが、いないなと思ったら、紋別市に通訳の仕事で行っていたり、いろいろ変化が富んでいる。ですので、今後、何年かたって、こういう国籍を見直すと、苫小牧市にお住まいの外国人の国籍が、またちょっと変わっているかもしれない、多分そういうことが想定されるかなと思います。

特に今のことで質問なければ、次に移ってもよろしいでしょうか。それでは、次に第2の苫小牧市多文化共生ビジョンの素案についてご説明をお願いします。

○浪岡主査 それでは、苫小牧市多文化共生ビジョンの素案について、お手元の資料に沿ってご説明いたします。時間の都合上、要点のみのご説明とさせていただきます。

お手元の資料の11ページと、あと別添2枚の苫小牧市多文化共生ビジョン（素案）、資料と書いたものをご覧ください。11ページには、多文化共生ビジョンと指針について、本市における位置づけを示しております。本市の理想の都市像である人間環境都市の実現に向けて、基本計画を実施する各個別計画として位置づけをしております。

続いて、12ページをご覧ください。本ビジョンと指針についての総合計画上の具体的な位置づけですが、部門別計画として、左下に記載のありますとおり、まちづくりの目標の第3、学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまちの②人が輝き文化の薫るまちづくりの推進、基本施策24、国際・国内交流の推進、2、多文化共生と異文化理解の推進の個別計画として掘り下げ、市の方向性を定めるものとして位置づける予定です。

また、多文化共生の考え方については、各分野におけるまちづくりの施策に位置づけていく必要があることから、右上に記したとおり、都市再生コンセプトプランの具現化として、重点プロジェクトの一つの要素として位置づけ、本指針は様々な部門と連動し、各分野の施策に横串を刺すものとして位置づけていきたいと考えております。

続いて、13ページをご覧ください。ビジョンの概要となりますが、本市において、誰もが国籍や文化的背景にかかわらず、地域の未来をつくる一員として、共生できるまちづくりの基本的な考え方と方向性を示し、発信するものとし、あくまで基本的な考え方や大きな方向性を示したいと考えており、より具体性を持った取組につきましては、指針

の中で示していきたいと考えております。

また、ビジョンは10年先を目安に理想の将来像を理念で示し、基本方針でその取組を示したものとなります。取組の主体者は市民となるため、主語は「私たちは」とし、その中で、企業、学校、地域、行政など、全市民に役割があるものとして示したいと考えております。

続いて、14ページになりますが、今後の進め方の流れを示しております。準備会議で議論いただきまして、12月議会での委員会報告を踏まえ、年明けの公表を目指していく予定となります。

続いて、15ページには、ビジョンの構成を示しております。構成は、基本理念と四つの基本方針で整理し、基本理念は、本市の特徴を踏まえ、未来に向けた分かりやすいキャッチフレーズを考えており、後ほどご議論いただきたいと思います。また、基本方針は、本市のまちの特徴や在住外国人の特徴、課題を踏まえ、働く、暮らす、輝く、つながるの四つのカテゴリーに整理しております。

各カテゴリーの頭に相互理解、対等な関係性を示す「ともに」をつけ、サブタイトルで補足する形を取り、別添のA4資料でお示しした項目を素案としております。

資料の16ページから19ページでは、基本方針の項目ごとに総合計画との整合性や関連要素を示しております。内容はあくまで素案となりますので、この会議において特に理念と基本方針の各項目の文言や、あとは含める要素等について、様々な視点からご意見をいただきたいと考えております。

簡単ではございますが、以上で苫小牧市多文化共生ビジョンの素案の説明を終わります。
○小田島座長 ありがとうございます。それでは、ビジョンの素案につきまして、これから大体30分ぐらい、皆様のご意見をお伺いしたいなと思います。

それぞれのお立場から、いろいろご意見を伺いたいと思うのですか、ちょっとその前に、外国人の委員であるグエンさん、ハニックさん、王さん、結構難しいですよ、書いてあることが。理解できましたか、大丈夫ですか。これは皆さんが理解した上で進めたいなと私は思っていて、ちょっとここ分からないなとか、そういうところがあれば、遠慮なく質問してほしいと思います。これは皆さんに関わってくることですからね。いかがですか、今のところ大丈夫。

○グエン委員 今のところは大丈夫だと思います。

○小田島座長 大丈夫ですか。

○グエン委員 はい。

○小田島座長 この資料を頂いたときに、僕は「ともに」という言葉、これを日本語勉強している外国人の方は、急に聞いても何だろうと理解するかなと思うのですが、簡単に言うと、一緒にという意味なのですね、日本人も外国人も一緒にということで、この表現が使われているのですけども。

さあ、どうでしょうか、ご意見。「ともに働く」という視点から、まず行きましようか。

当ててもよろしいですか。何でも言ってもいい会議なので、よろしいですか。

では、外国人の方と働いてらっしゃる、阿部さん、いかがですか。

○阿部委員 特には、異論はないということですが。世界とつながる海と空と港をいかし、など、分かりやすくまとまっているので、いいかなとは思いますが。

○小田島座長 苫小牧の土地柄をうまく生かした表現になっているという、そういうことでいいですか。

○阿部委員 そうですね。

○小田島座長 はい、ありがとうございます。

そうですね、グエンさん、逆に外国人として、日本のというか、苫小牧にある企業で働いて、何かご意見とか、もうちょっとこういう要素を入れてほしいとか、逆にこれ、書いてあることに理解を示すとか、何かコメントありますか。

○グエン委員 僕も苫小牧で、働いて7年目です。働くときには、言語とか技能、技能とか能力、労力、言葉が主にはすごく大事になっているかなと思っていまして、この中で書いている、一緒に働く以上は、何ですか、言葉が大事になっているし、そして企業のことを理解して、仕事も理解できるようになっているのが大事で、ただ、すみません、ちょっと……。

○小田島座長 はい、大丈夫ですよ。何か加えてほしい言葉とか。

○グエン委員 そうですよ。

○小田島座長 何かありますか。

○グエン委員 そしたら、後でいいですか、すみません。

○小田島座長 はい。

笠原委員、今、基本方針①の、今、意見交換に入っているところです。16ページ、それに関して今、皆さんのご意見を聞いているところです。

何かあれば。ありますか。はい、どうぞ。

○リリー氏 これは、ともに働くだけではなく、多分全部のカテゴリーに関係があるのだと思いますけど、例えばともに働くの部分の中で、多様な人材を受入れと多様な力を使って新たな挑戦を続けますと書いてあるけれど、例えば、何か多様、多様といっても、具体的なところはなかなかないので、あとは外国人について話すときは、いつも外国人と言いますが、外国人の中でたくさんの国籍があります。国籍によって文化とか価値観は全く違いますので、どうやって幅広い外国人向けのトレーニングとかをつくられますか、そういうことについて考えないと、少し難しいなと思います。

○小田島座長 はい、ありがとうございます。

はい、王さん、どうぞ。

○王氏 実は、先ほどおっしゃったとおりに、「ともに働く」、これは多様な人材を受け入れ、私、この資料をもらってすぐ考えたところは多様な人材。今、苫小牧市は地域産業の人材不足が深刻ということがあるので、何か各企業がどのような人材が必要とか、それ

はちょっと各会社に労働局、連携しないと、ちょっと何か、比べないと分からないかなと思います。何かちょっと、多様な人材は、どのような人材が今、必要になるということは大切だと思います。以上です。

○小田島座長 はい、ありがとうございます。

ここで言う多様というのは、外国人、日本人とか、そういうことだけでなく、日本人の中でもいろんな人がいらっしゃいますしね。いろんな国の方、いろんな文化、背景の方、そういう方全てを、何ていうのでしょうかね、いろんなどんな人が来てても力を発揮できるようなまちにしていきたいと思いますという、そういう表現になってきます。

具体的に、さっきちょっと説明ありましたが、大きなビジョンをつくって、さらに細かいプランを後でつくっていきましょうという、まずはその大きなビジョンを皆さんで話し合いたいというところですね、ありがとうございます。

○王氏 ありがとうございます。

○小田島座長 ほかにどなたかご意見ありますか。

○高田委員 ビジョンの②、いいですか。

○小田島座長 ちょっとお待ちいただけますか。なければ、ビジョン②のほうに移りたいと思います。なければ、いいですか、②のほうに移って。

じゃあ、高田さん、お願いいたします。

○高田委員 ビジョンの①に関しては、外国人の方が雇用される企業側のメリットは、当然ながら人材確保。そうだよ。人が増える、働き手が増えるということは、企業の活性化にもつながる、これはもう分かっております。

②に関しては、今度、住み続けるということになってみると、住民側からすると、何のメリットがあるのかというものが一つ。単純に、これ、私の意見でないですからね。そういうふうに思う節の方もいるのかなと思うのです。

例えば、役割という言葉が先ほどありましたけども、町内会の活動においても様々な部分で、今、高齢化とかやり手がいなくてということで大変ですけども、5のつく日に郵送がどばっと来るのです。これ、どう処理するのかと。そういうことを考えて、さらに何かから何をすればいいの、地域住民に何のメリットあるのだろうかという発想が出ないかな、負の発想ですよ、これ。私個人じゃないですよ、私じゃないですけども。

そういうふうに考えた場合、どのように周知をしていって、人が増えるということは、苫小牧の住民が増えて、様々な、これは後でまた話ししますが、アンケートのほうに言っていくんですけども、社会保障制度に基本的には加入するという一応なっていますよね。そういうメリットというのは、恐らく一般住民には分からないと思うのですよ。

ですから、そこら辺のメリットをうまく表現を、あまり刺激しないような言い回しをしながら、やっぱり徐々に浸透していって、外国人の方も地域に住む、これは不動産業者だけではなくて、一般の人たちもメリットあるのだよということをお分かりいただけるような何か展開というか、方法にしていいただければありがたいなと思うのですね。

○小田島座長 ありがとうございます。そうですね、特に今住んでらっしゃる方々に対して、このビジョンがどういうふうに、いい方向に理解されるかという、そういう表現の仕方についての疑問がありましたけども、これに関して、皆さん、いかがでしょうか。はい。

○千寺丸委員 私も地域づくりの部分に関して、社会福祉協議会でいろいろと進めているのですが、②と③の人が輝くまちとか、子どもたちを育てますというところにもつながってくるのですが、やはり高齢者に関しては、外国人の受入れというのが、なかなか理解力が何か難しくなっているという部分があるのかなというのは感じています。

ただ、子どもたちに関しては、多様性という部分についてもいろいろうちの事業で関わっている子どもたち、非常に受入れがすごく早い、理解力もあるというところ。だから、子どもたちを使った地域づくりをしていくことによって、この「ともに暮らす」という部分が、もっとうまく浸透できるのではないかなというふうに、これを見ていて思っていたのですが、この多様な人という部分が、なかなか通じないという方が高齢者の中には多いのかなという部分があると思います。

あと、この理念の中で、「あなたと創る あなたとかがやく」というのは、あなたについては、どのあなたなのかというのがちょっとあって、ほかのまちの自治体の理念の中で、そういう、このあなたとか私とかというところが少ないので、どうかなとっていて。このあなたというのはどこの部分、全員なのかというところが、ちょっと難しく考えてしまったのですが、そういうふうに感じてしまうのです。

多様なところが、私たちは分かるのですが、広く分かるかなという部分がちょっと感じておりました。すみません。

○小田島座長 ありがとうございます。

最近、報道でもね、いろいろ多様なという言葉がよく出てきますけども、これを一般の方々、こういう会議に参加されていない住民の方たちが理解できるかどうかという、そういう懸念ですね。ほかにいかがですか。はい、どうぞ。

○リリー氏 すみません、追加したいことなのですけれども、例えば何か災害が起こった際には、外国人と日本人はどうやって助け合うとか、あとはコミュニケーションを取りやすい環境をつくるために、やさしい日本語のトレーニングとか、何かそういうこともできればそこに入れたいなと思います。

○小田島座長 はい。ビジョンの下に、そういう活動を入れていきたいということですね。分かりました。ありがとうございます。

ちょっとハードルの高い高齢者への理解というテーマがちょっと上がりましたがね、これ、何かほかの自治体とかで取り組まれている例とかあれば、田村さん。

○田村氏 まあ、ビジョンでどこまで書くかですね。少し後で個別の施策の中に入れていくというのも一つかなと思いますが、さっき防災の話とかもあって、この「ともに暮らす」の中の二つ目で、誰もが公平に安心して住み続けられるとあるので、この安心してという中身を少し説明してあげると、日本人も含んで、高齢者の人も含んで、誰もが安心し

て住み続けられるという、そこが目的で、外国人の人も一緒にいることで誰もが安心して暮らせるのだよ。外国人の人が安心して暮らせるということじゃなくてね、外国人の人が地域にいて、誰もが安心して暮らせるのですよというような書きっぷりになると、受け取る側としては、これ、外国人のためにつくっているビジョンじゃないのだな、地域みんなのためにつくっているビジョンなのだなというふうに受け止めてもらえるのではないかなと思います。

○小田島座長 ありがとうございます。そうですね、よく多文化共生は誰のためにやるのだという議論がありますけども、決して、田村さんがおっしゃったように、外国人のためにやるわけじゃなくて、我々地域のために、日本人のためにもやっていくことというのがありますんで、そこを理解してもらえそうな表現にしていくというのが大事なのかなと思います。ほかに。はい、どうぞ。

○奥村委員 今、多様な人材というところで、人が互いにというところが引っかかっているように、話題になっているように思うのですが、これ、つまり素案の、資料ですかね、他の自治体の理念もいろいろと見てつくられていると思うのですが、この参考にされたところと苫小牧が同じかどうかというふうなところを考える必要がある。

つまり、多様な人がというときに、目的が違うかもしれない、特色が違うかもしれないということですね。そういう意味からいくと、苫小牧のニーズ分析をされると、この多様な人々というのがもっと見えてくるかもしれない。

例えば、2025年問題、75歳、要するに団塊の世代が75歳になる。介護士だけで34万人足りない、日本人はならないのだ、だから外国人介護士を雇わないといけない、来てもらわないといけないという現実があります。

2060年には、もう2割の人が外国人というふうなデータもありますから、多様な人々というのは、苫小牧市としてはどんな人が必要なのか、未来ビジョンとして、苫小牧のビジョンはどうか、その中で我々はどういう多文化共生を考えていくかというようなことを、もう少し分析をしてから、それを加味して、ほかの集住地域のこの理念も参考にしながら、散在地域の現状も加味したものを考えていくべきではないかと感じました。

○小田島座長 はい、分かりました。まずは苫小牧市の足元をしっかりと把握すると、その上で、この多様な人がどういう人を想定しているのかというのを明確にしていくということですね。はい、ありがとうございます。

さあ、ほかにいかがでしょうか。よろしいですか、②については。

それでは、じゃあ、次、③のビジョンですね。ご意見のある方、積極的にお願いいたします。人材育成であれば、広い意味で、どこの機関でも人材育成にはなるのですが、

はい、どうぞ、五十嵐さん。

○五十嵐委員 ③番に関しては、「ともに輝く」というのは、人材育成をするということが輝くということという解釈なのかなと。育てます、育てますというのが輝くなのか、ちょっとそこら辺が何となく私も納得感がなかった。

あと、瑣末なことですけど、まちを愛するなのか、まちを愛しなのか、これ、頂いた資料と違ったのか、「愛し」なのか、「愛する」なのか、ちょっと確認をさせてください。

あと、10年後のってさっき出ていましたね、10年先を目安とした理想として、グローバルな視野でまちを愛するということ、グローバルという言葉が本当に10年先を目安としてふさわしいのか。輝くということ、活躍なら分かりますけど。人材育成という、育成って。まちを愛する人を育てるといのはちょっと、愛するのは個人の自由なので。愛してもらえとかなら分かるんですけど、愛することを強要されちゃうという気持ちになります。

さっき、千寺丸さんがおっしゃったのは、「あなたと創る あなたとかがやく」というのは、この四つを包括しているタイトルなのかということも私も気になっていて、あなたって誰かとか、世界とつながるって、ビジョンとはいえども、ほかのまちのような、何々苦小牧って最後につけたときのフィット感がない。

○小田島座長 今のコメントに対して、どなたかありますか。輝くと、そのサブタイトルですね、主体性を持ち、活躍できる人材育成のフィット感がちょっといまいちじゃないかというご意見でしたが、いかがでしょうか。

輝くという、私のこれは理解なんですけど、「輝く」を、ちょっと活躍できるとか、このサブタイトルで説明を補足しているのかなということと、私はそのように理解したところです。ただ、先ほど五十嵐さんが言った、愛するの、その辺は個人の自由じゃないかみたいところはどうでしょう、皆さん。自分が苦小牧を愛するようなまちづくりをしていきたいということなのかなとも理解しましたが。

○五十嵐委員 主語は「私たちは」って、これ、全部絶対つけるのですか。何か全部に主語がついていると、何か、ついてもつかなくても一緒なのかなという感じがするぐらい、何かくどいなというイメージを持ってしまう。

後ろに「です」を表す文章になっていけば、それは私たちのほうで訳しているの。

○小田島座長 そうですね。ここの、どうですか、「私たち」ちょっと多いですか。

○五十嵐委員 何となく多いような。

○小田島座長 はい、というご意見がありました。

○奥村委員 ビジョンとか憲章として小学校で読まれるとか、そういう意図があるのですかね、これ。私たちは、私たちはって。

○瀬川委員 そう思いました。

○田村氏 市民憲章ですね。

○奥村委員 市民憲章、そんな感じしますよね。

○五十嵐委員 私も憲章を思い出しました。

○奥村委員 そうでなければ、おっしゃったように、別に要らないかなと、「私たちは」。

○小田島座長 まあ、この「私たち」をつけるかつかないかですね、事務局のほうで考えていただければと。今のご意見を踏まえて考えていただければというふうに思います。

ほかにはいかがでしょうか。

瀬川委員、今、18ページのビジョンの基本方針③を今、議論しているところです。なので、今、「ともに輝く～主体性を持ち、活躍できる人材育成～」というところですね。「ともに輝く」というところと「人材育成」がちよっとフィットしないのではないかというご意見ですとか出ております。いかがでしょうか。

大学はすぐ、卒業したら社会に出ていく人たちを育てていると思うのですが、どうでしょう、この基本方針。

○奥村委員 ありがとうございます。

逆に、義務教育の小学校、中学校の先生は大変だろうなと思って、こんなね。多様な価値観を持つ子どもたちを育てますって書いていますから、育てないと大変なことになってしまう。

○小田島座長 強迫観念で。

○奥村委員 大学だったら、もう大人だしとか投げられるのですが、これ小・中の先生、プレッシャーだろうなと思うのですが、そんなことはないですか。

○瀬川委員 頑張ります。

○小田島座長 着いたばかりで申し訳ありませんが、瀬川さん、どうぞ。

○瀬川委員 人材育成というのは、やっぱり苦小牧市の市民憲章の部分で外せない言葉なのかなと今、ふと思った。大事な単語にしたいし、自分自身も学校の中では広い意味での人材育成というのは大事にしているところです。人づくり、まちづくり。

○小田島座長 あと広い意味でいうと、何も学校だけが人を育てる場ではないわけで、例えば企業ですとか、そういうところでも人をどんどん育てていくということもありますので、何かそういう視点でご意見があればお伺いしたいのですけれど。

○千寺丸委員 いいですか、そしたら。うち、社会福祉協議会のボランティアセンターでボランティアスクールというものを毎年開催させていただいているのですが、去年から、今まで福祉教育という、何か障害、高齢者という部分だけをやってきたのですが、なかなか子どもたちを集めるのが難しくなっていて、去年から少し内容を変えていこうということで、去年はLGBTQ、多様性についてみんなで学ぼうというようなタイトルにしてやらせていただきました。それで、参加者も大分増えてきました。今年はフェアトレードについてなので、高校生が考えたことをテーマにして、今年のボランティアスクールのテーマとしてやらせていただきました。今年もさらに人が増えました。

子どもたちがすごく、本当に今、自分たちから自ら発信して、こんなことやりたい、あんなことやりたいって言ってくれるような時代になってきているのですよね。なので、すごく今、この小・中学校、高校生含めて、子どもたちの、何だろう、持っている価値観とか、そういうところがすごくパワーアップしているなというふうに感じております。

LGBTQについて去年やったときも、私たちがこのテーマ重過ぎないかなと思ったのですが、子どもたちがすごく受け込むのが早い、当事者の方々にも来てもらって交流

しいたいたのですけども、すごくいいボランティアスクールになったのですね。

なので、そういうことをもっとどんどん広めていく、また、外国人の方との交流もどんどん広めていくことによって、子どもたちの教育、自ら、自分たちで何か勉強してくれるのではないかなと、自然に広がっていくのではないかなというのは、この2年間、ボランティアスクール、ちょっと変更してやってきたのですけども、そのように感じております。

なので、本当に子どもたち発信、目線で多様なところを何か発信したり、自ら考えていただいたりするということを取り入れていくと、何かすごくよいまちづくりにつながっていくのではないのかなというふうに感じております。

○小田島座長 そうですね、今後の苫小牧を担っていく若い人たち、柔軟な頭を扱ってきて、いろんなことを発信していくのですね。さあ、ほかにいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○奥村委員 2行目ですね、「私たちは、グローバルな視野で、まちを愛する、多様な価値観を持つ子ども達を」というところの、この「グローバルな視野で、多様な価値観を持つ子どもたち」というのは、ぴたっと合うのですけど、「グローバルな視野で、まちを愛する」というのはどういう意味なのかと。

もう一つは、ここにいる私たちのグローバル化、グローバルって何をイメージするのか、本当にグローバルという、またはグローバルということのほうがいいのではないかと思ったり、下手すると、我々の世代、グローバルというのはアメリカ化、そうイメージしていませんかということですよ。そうじゃなくって、アジアにもっと目を向けたり、本当にグローバルだと何があってもいいのですという趣旨がこれで伝わるのかというふうなところで、まちを愛するとは何かちょっと合わないなというのが率直な意見ですね。

○小田島座長 そうですね、今のご意見としては、要はグローバルな人たちが広い視点で自分の足元を見たときという、そういう表現がこれで合っているかどうかというところでしょうかね。

○奥村委員 言葉はすごく美辞麗句が並べてあるのだけど、すごく耳障りはいいのですが、その現実離れしている、別の、世代が違う人たちに同じ言葉が通じるのか。我々の持っているイメージの言葉ですね、というところがちょっと不安ですね。

○小田島座長 はい、ありがとうございます。

ほかになければ、④のほうに移っていきたいなと思います。よろしいですか。

それでは、基本方針の④「ともにつながる～魅力づくりと賑わいづくり～」、これに関してご意見があればお願いいたします。いかがでしょうか。

○五十嵐委員 質問してもいいですか。④番の一番上の文章を、ちょっとどういうイメージでつくったのかを説明してほしい。積極的に魅力を発信し、情報を受け入れますって、ちょっと分かりにくい。何の魅力を発信、まちの発信、人の魅力。

○小田島座長 どうですか、事務局。

○青山副主幹 全て含んでいます。これに関しては。

○奥村委員　そこで愚問ですけど、苫小牧の魅力は何ですか、何を発信できるのでしょうか、現状でいうと。例えば、10年後でもいいのですけどという、何ていうのですかね、ポリシーとかビジョンがあればこの言葉は生きてくるけど、何となく言葉、字面はいいのだけでも終わってしまうと思われるのですが、どのように思われるか、この辺はどうしたら。行きたくなるまち苫小牧というのがやはり将来設計だと思うのですけども、そのために何を魅力として情報発信するのかというのが、正直言って、まだ見えてこないのかなというふうに思うのですけど。

○小田島座長　地元の方ならではのご発言がありましたので、田村さんとか外から来た人間にはやっぱり、我々の住んでいるところにはないものというのがやっぱり移ってきたりとかというところは多々あるのですけど、住み慣れるとね、なかなか分からなくなってきたり、そういうことありますけど。

○高田委員　この基本方針の一つ目に、私たちは積極的に魅力を発信し、世界中からの人・文化・情報を受け入れます、言い切っちゃっていいものなのでしょうか。

○小田島座長　語尾ですね。

○高田委員　普通は何でも、何とかに努め、何らかを達成しますとか、何か一つ置いとくといいのではないかなってね。

○小田島座長　断定していますよね。

○高田委員　問題が出てきて、この言葉尻をつかまえられて、何か。

○小田島座長　まあ、これは断定するという事は、これをやり切るという決意の表れなのでしょうね。

○青山副主幹　ちょっと濁させてもらいましょう。

○小田島座長　今のご意見踏まえて、また検討いただければと思います。さあ、ほかにご意見どうですか。はい、お願いします。

○笠原委員　基本方針の④まではつくらなきゃならないのですかね。何かやっぱり①、②、③、④に番号が増えるに従って、何ていうかな、分かりづらくなるというか、多過ぎるかなというのと、先ほど、奥村さんが話したように、何を目的にこの共生ビジョンがあるのかなというところもありますし、④については別に、この積極的に魅力を発信し、世界中から人・文化・情報を受け入れますという、魅力を発信して情報を受け入れるというのが、ちょっと僕には理解がしにくいなというところですかね。

①、②、③は、およそ働く場所、暮らす、未来に向かってともに輝くということなのですが、つながるってことになる、何か無理やりつなげている感がして、そもそも外国人が苫小牧に来られる方も、日本の文化がよくてとか、その中では苫小牧が選択されてというのがあると思うので、何ていうのかな、日本、昔的な話でいうと、郷に入れば郷に従えみたいなものとか、それはそれであってもいいのでしょうし、他方でいろいろな文化を受け入れながら一緒にやっていくというスタンスもいいのかなと思うのですけど、そう考えると、④というのが、何か強制的というか、はっきり言って、無理やりつくっているか

などというがあるので。

○青山副主幹 うちのほうで、交流人口の増加とかという目標が、うちの部署的にはあるのが全庁的に取り組まなきゃいけないものの一つであるので、それをイメージするというか、それを生かすために入れているというところが正直なところではあります。

○笠原委員 なので、こういうところが、多分、外国人の方にすると、日本独特な表現で、一番難しくなるのかなという感じがするのですね。

○高田委員 逆に言うと、一番表現したいのですよね、これね。

○小田島座長 そうですね。いろんなところとつながっていますよと、苫小牧市はということですね。ほかにいかがでしょうか。ちょっと時間が迫ってきていますね。

例えば、今、④ですけども、ちょっと戻って①から④、全部通してまた何かコメントしたい方がいらっしゃればお願いします。

○奥村委員 コミュニティーでね、さっきちょっとお尋ねしましたがけど、他の自治体理念を参考にされているのが多分あると思うのです。これはどうしてここをピックアップされたかみたいな背景があるのですか。

○上原主事 はい、ビジョンの基本方針のところは、苫小牧市の総合計画、現にもう市が示している施策の積み上げです。

理念の部分は、逆に苫小牧らしさというか、キャッチコピーというところで、何かに基づいているというよりは、分かりやすさであるとか、そういったものになりますので、他の自治体の例という部分も、ビジョンの中身ではなくて、これはキャッチコピーですので、中身というよりは、分かりやすさといいますか、表現の部分での参考資料という形で示しております。

○奥村委員 よそはこんな格好いいから、うちも格好いいの。

○上原主事 そうですね。あくまでほかのまちはこういうふうにというところで、分かりやすさとして、苫小牧がどういう表現がいいのかという部分ですね。

○奥村委員 そうですね、負けないように。

○小田島座長 あといかがですか。はい、どうぞ。

○リリー氏 すみません、別のところですけども、一つ目は、この理念のところ、「あなたと創る あなたとかがやく」、これは、その後は、苫小牧は世界とつながるとか、本当に何か私たちとか、苫小牧、何か言葉を入れたいなと思います。

あと、③番目の「ともに輝く」という点なのですけれども、五十嵐さんがおっしゃったとおり、ちょっと輝くはきれいなイメージがあるけど、少し分かりづらいかもしいので、これは、ともに学ぶとか、ともに成長するとか、もうちょっと分かりやすい言葉に変更したらいいのかもしれないです。

○小田島座長 はい、分かりました。ありがとうございます。

○五十嵐委員 これ、①、②、③、④、この順番で並べるという予定ですか。働くが先で、つながるが最後。働かない人たちがいっぱいいるのに、何で最初に働くが来るのか。やっ

ぱり苦小牧のまちは、技能実習とか特定が多かったですけど、一方で、在留資格を見ると、働かない人も同じぐらいいるのです。なのに、働くのが先に来る。理由があるのであれば、それはちょっと教えていただきたいなと思ったのと。

今、リリーさんが成長とかって、例えば漢字2文字で分かりやすくキーワードに並べて置いたときに、①番は協働、②番は共生とか、③番目に何だろうというのは私もすごく悩んでいて、ちょっと分かりやすいキーワードとともに、分かりやすい言葉に、共に暮らすとかは和語で分かりやすいけど、分かりやすいがゆえに抽象度が高くて理解がしづらいので、かえって協働とか共生と書いたほうが日本人にとっても分かりやすいのかもしれない。そのキーワード、ちょっと書いたときにどのようになるかというのは考えていただいてもいいのかなというのが正直なところ。

○小田島座長 いかがですか。田村さん、最後にビジョンの方針について。

○田村氏 ありがとうございます。

出来上がってから、今日の議論がとても大事だったなとみんな思うと思うのですよ。逆に言うと、これをまとめるのは物すごく大変なのですけれども、一つ思いましたのは、これ、理念と基本方針の間に何か文章があったほうがいだろうなということです。

私たちはこれこれについて、こういうことを目指すためにこういうことをしますというような文章が1個あって、その後基本方針が続いてくると、それぞれの方針の中身が割と、ああ、こういうことを目指してやっているのだなというふうに理解がしやすくなるのではないかと思いますので、ここの理念と基本方針の間に何か文章を、今日出たような意見を踏まえたですね、何か、ああ、こういうためにやるのだなというのが分かるような文章が1個入ると、大分スムーズに理解がされるのではないかなというふうに思いました。

それから、働く、暮らす、輝く、つながるというのは、これは別に、総合計画とかと呼応しているわけではない。

○上原主事 まとめています。整合性は取っています。

○田村氏 整合性は取っている。この順番とか表現とかは、総合計画からそのまま来たわけではない。

○上原主事 ではないです。

○田村氏 ではないですね、分かりました。じゃあ、先ほどもありましたとおり、働いてない人も当然いるわけで、暮らすが先のほうがいいのかなと思ったりします。

その順番はさておき、働く、暮らす、輝くと来て、やっぱりつながるというのが、ちょっと前三つと比べると、やや違和感があるように思いますので、一方で、「ともに輝く」の中に入っている言葉が、どっちかという、学ぶとか育むとかいう言葉のほうがなじむかなと。逆にその「ともにつながる」のほうに書かれていることが輝くのかなかなと思うので、例えばですけど、ちょっと順番は今のままだとして、働く、暮らす、学ぶ、もしくは育むにして、最後が輝くにしたほうが、中身は何か生きてくるのかなという気がします。

順番としては、暮らすが先で、学ぶが次で、働くが3番目で、最後に輝くというほうが、

何ですかね、落ちというか、人の流れとしては、暮らす、学ぶ、働くで輝くという流れのほうが、何かしっくりくるのかなという気がいたしましたので、今日、とてもいい意見がたくさん出たように思いますが、今ちょっと私も余計なこと申し上げたかもしれませんが、参考にしていただいて、一旦整理をしていただくといいのかなと思います。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。それでは、いろいろ意見出ましたので、事務局、大変だと思いますけど、まとめていただいて。

それでは、次に進めたいと思います。次第の3のアンケートについて、事務局から説明をお願いいたします。

○浪岡主査 それでは、多文化共生市民アンケート案について、お手元の資料に沿ってご説明いたします。こちらも時間の都合上、要点のみのご説明とさせていただきます。

お手元の資料の21ページをご覧ください。まず、外国人向けアンケートになりますが、21ページに概要を示しております。調査目的は、外国人向け、日本人向け共通であり、指針策定に向けて、現状把握や課題抽出、目標管理のための基礎的資料の収集を目的として実施いたします。調査対象は、13歳以上の特別永住者を除いた外国人市民を予定しており、8月1日を基準日として、約1,000名が対象となる見込みとなります。また、実施期間は、9月中旬から10月中旬の2週間程度で予定しております。

22ページには、調査方法を示しております。該当者へは、郵送にて依頼を行い、回答方法は郵送もしくはオンラインの2パターンを予定しております。また、言語はやさしい日本語、英語、中国語、ベトナム語を予定しており、予算の許す範囲内で、さらにインドネシア、ネパール、ミャンマー語を追加したいと考えております。国籍ごとにやさしい日本語と母語のQRコード付チラシと回答用紙を送付し、母語が用意できない方には、やさしい日本語と英語版を送付したいと考えております。

また、回答率向上に向けて、封筒への表記の工夫や、23ページに記載しました各機関へ周知、協力をお願いしたいと考えております。

24ページにはスケジュールを示しており、本日いただいた意見を内容に反映し、翻訳作業などを進めた上で、10月中には調査を完了したいと考えております。

次に、アンケートの具体的な項目になりますが、25ページをご覧ください。質問は大きく6つの大項目に分け、全体では39項目を予定しております。また、基本的に、回答のしやすい選択式で実施したいと考えております。具体的な質問内容については、別添アンケート案（外国人向け）資料をご覧ください。

続いて、日本人向けのアンケートについてですが、外国人向けと重複する部分は省略して説明させていただきます。

26ページに概要を記載しておりますが、対象者は無作為抽出で2,000名を予定しており、年代、性別、居住地域で偏りの出ないような方法で抽出を行う予定です。実施時期は、外国人向けと同じ時期を予定しております。

27ページになりますが、調査方法は外国人向けと同様に、対象世帯へ郵送にて依頼を

行い、回答方法は郵送もしくはオンラインの2パターンを予定しております。また、スケジュールも、外国人向けと同様に進めたいと考えております。

28ページには、アンケートの具体的な項目を示しております。質問は大きく三つの大項目に分け、全体では18項目を予定しております。また、外国人向け同様に、基本的な選択式を予定しており、具体的な質問内容については、別添アンケート案（日本人向け）資料をご覧ください。

内容はあくまで案となりますので、この会議においては、特に外国人向け、日本人向け、それぞれのアンケートの項目の内容について、様々な視点からご意見をいただければと考えております。以上で多文化共生市民アンケート案の説明を終わります。

○小田島座長 ありがとうございます。それでは、外国人向けと日本人向けアンケート、それぞれ分けてご意見をいただきたいなと思っております。

まず、外国人向けアンケートですが、項目として基本事項、それから「はたらく」「くらす」「まなぶ」それから「にぎわい」、そういう大きな項目で設問がされております。この設問について、皆さんからご意見または、こういう質問もちょっと聞いたほうがいいのではないかとこのころがあればご意見を願います。はい、どうぞ。

○リリー氏 すみません、幾つかあるのですが、まずは基本事項のところの中で言語についての質問ですが、母語だけではなく、ほかの言語も結構話せる人もいます。したがって、日常言語までリストができるようにしたほうがいいと思います。そして、リストアップした言語はどれぐらい話せるかも聞きたいなと思います。なぜっていったら、英語が話せるっていても、英語で手続きができるというわけではないです。

あとは、「はたらく」の部分の中で、2番目の質問、これからも今の仕事を続けたいですかという質問の後、どうしてですかという質問も入れたいです。

最後のことなのですが、前回のアンケートの場合は、回収率は9%でした。今回は20%を目指していますが、難しいと思います。苦小牧に来たばかりの人は、多分、私に関係ないと思ってしまうかもしれません。もしくは、このアンケートに興味がありません。だから、プレゼントをあげたいと思います。例えば、アンケートをしたらクーポン券をもらって、市役所に行ったら買い物やグッズをあげることです。ネットワークのチャンスになりますし、プレゼントをあげたら回答率も高くなるかもしれません。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。

言語ですね、1の6で言語を聞いておりますけども、じゃあ、言語は何を話すのかというところをリストとして示してデータを取ってはいかがかというところですね。

それから、非常に建設的なご意見で、回答率を上げるために、何かノベルティーを用意してくださいということですが、市のほう、いかがでしょう、できますか。

○田山地主幹 予算の関係のことですから、もう少し考えさせていただければと思います。

○小田島座長 でも、アイデアは。ありがとうございます。ほかにご意見とか。

○高田委員 「くらす」の6番目の2に、給料やお金が少なくなると困るといことなの

でしょうけども、お金が少ないという意味合いが、どういうふうにとったら、日本人の私たちにしても何か、要するに契約上違うのか、それとも物価水準のお金がどうなのだとか、どっちなのかなと思ったのですけど。

○小田島座長 生活する上でのお金が足りないという意味なのかどうかということですね。ここをもう少しはっきり聞いたほうがいいということですね。

グエンさん、どうぞ。

○グエン委員 僕も最初の基本のところの、例えば、言語、その後は、日本にどれぐらい住んでいるか、そしたら、例えば下に、またもう一つ追加したりとか、日本どれぐらい住んでいる、そしたら日本語をどれぐらい分かるというのも聞いたほうがいいのではないかなと思います。

そうしたら、苫小牧にいる外国人の中で、どれぐらい日本語のレベル、これぐらいの人がどれぐらいいるとか、それでまた次のところ、例えば「くらし」の中にも、交流とか、その質問もあったほうがいいとかじゃないかなと思うのです。

まあ、一つ、今のところ、日本語がどれぐらい分かるかということを追加してもいいかなと思うのですよね。

○小田島座長 分かりました。基本事項の7の後に、日本語の理解、どれぐらいできるかというところですね。

○グエン委員 そうですね、理解力、どれぐらいかですね。

○小田島座長 分かりました。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○奥村委員 すみません、外国人向けアンケートにしては、質問が多いのではないかと。これは外国人の方、何分かかるのかなと個人的には思います。もうちょっと、何だろう、スリム化をして、本当に必要なところだけをするだけでも。

先ほど、やさしい日本語にするという話もありましたけど、結構大変。もっと増えますよね。だから、それ考えると、もう少しスリム化をやらないと、本当に必要なところを取らないと、20%は、誰も返してくれないというふうに思います。

あと、もう一つですけど、全体的に数字が、算用数字の1、2、3、4が多用化されているので、項目ごとに1、2、3、4を使うのであれば、細目のところは片括弧とか①とか②とかというふうな数字の使い分けによって項目が違うよという見方ができるような、そういうような配慮も必要なのかなというふうに思いました。

○小田島座長 はい、ありがとうございます。いいですか、まだありますか。

○奥村委員 あっ、1点いいですか。例えば2枚目の4-2というところなのですけども、4-1で、あるの場合、この「ある」はかぎ括弧しておかないと、4-1で「ある」の場合って言うておかないと。「ある」はかぎ括弧しておかないと、あると書いた人はというふうな。というふうなところとか、「まなぶ」のところの4-2のところは、「はい」の場合。ここ、「はい」ではなく、「欲しい」「欲しくない」で答えていますから、上で。

「はい」ではないのです、「欲しい」の場合というふうに、「はい」を「欲しい」に「ま

なぶ」の4-2は変えないといけないでしょうし。

それから、元に戻って2ページの一番下ですかね、「くらし」の7番、「あなたの知りたい情報はどんなことですか(複数回答可)」ですけども、ここはやっぱり7番、その他、この項目にないのがあるかもしれないという、その他も必要でしょうしというところ。

それから、4ページになりますけども、これは「にぎわい」の4、あなたは苫小牧市の外国人相談窓口を知っていますか。1、知っている、2、知らない、8、その他。3かな、これ。「にぎわい」の4、3-4かな、4ですね、そういうとこ、数字が飛んでいるというところですね。その他、もう一つありますけど、まあ、はい、細か過ぎるので。

○小田島座長 はい、ありがとうございます。

まず、まとめますと、質問の数が多いのではないかということですね。それから、表記。質問の、例えば大きな1があつたら、次の細目のところは、例えば丸数字にしたり、括弧とか、ちょっと工夫が必要でしょうということと、回答を聞いた上で、さらに質問のところはかぎ括弧でくくった上で、そこが分かるような工夫が必要というところですね。あとは、回答の仕方、「はい」か「いいえ」で答えるところを整理するよにというところまで今ありました。ありがとうございます。

今、質問が多いというご意見がありましたけど、どうですか、まだまだしたほうがいいのか、逆の意見はありますか。どうぞ。

○王氏 よろしいでしょうか。私は、ちょっと失礼かもしれないのですが、私は外国人として、こういうふうな内容、こういうふうな量は、聞かれましたら、いやあ、すごく幸せかと感じます。なぜかという、こういうふうに聞くと、ちょっとこの詳しい内容でしたら、苫小牧市は外国人を中心にされるというイメージが深いと思います。リリーはどう考えていますか。

○リリー氏 確かに、こんなに詳しく聞いてくれましたら、結構幸せですよ。やっぱり、何というか、回答するときは少し大変かもしれないんですけど。

○王氏 そうですね、大変かもしれないですけども、でもこれは私の思いとしては必要かなと考えております。

あと一つは、アンケートの回収率は、こういうふうな課題が前回はありましたけれども、今回は、例えば企業で働いている人、外国人が直接おうちまで届かないように、会社に直接届いたら、休憩の間、管理者が「ちょっと皆さん、アンケート回答お願いいたします」こういうふうに指導しながら、分からないところ、もちろんあるかもしれないのですか、そのときはちょっとお教えしながら、回答したほうがいいのかと考えております。

あと一つは、最後ですが、ちょっとアンケートの内容について、「はたらく」のところは、ちょっと今、都市の経済成長を推進するために外国人の起業は無視できないので、外国人の起業支援事業は重要だと思います。なので、アンケートで調査していただければと思います。例えば、この「はたらく」の中で、起業したい場合はどんなことが知りたい、起業についての講座がありましたら参加したいですかなどの内容をアンケートに入れたほ

うがよいかなと思います。以上です。

○小田島座長 はい、分かりました。質問が多いということに関しては、外国人の立場から、苫小牧市が外国人のことを非常に思って、このたくさん質問を聞いてくれているという受け止めをするということのご意見もありました。

それから、ちょっと設問を一つ増やして、起業したいという方が結構いるということで、そういう設問も検討してほしいというご意見です。

ほかにかがでしょうか。外国人のアンケートに関して。はい、どうぞ。

○五十嵐委員 質問ですが、基本事項のところ、日本人にはないのに、外国人にはあるのが、性別のところの3、その他。外国人にはあって日本人にはない、これは何か理由があるのですか。

○青山副主幹 ないです。

○五十嵐委員 それから、やっぱり番号のことですけど、集計するときには連番にしたほうがいいと思います。言わば、特に1から分けると、集計って大変だと思うのですね。連番にしておいたほうがいいと思います。

あと、中身については、ちょっと細かいことですけど、例えば「くらす」の4、体調が悪いとき、自分が行く病院がわかりますか。分かる、分からない、その時に調べるという、そういうふうに、分かる、分からない、の下位分類がそのときに調べる。分からないとき、それが同列にある。分かるか分からないか、そのときに調べる、会社の人を連れていってくれる、これは分からないということのうち、分かっていたら自分でやるけれどもと。

それから、6番の、困ったことはないが1番に来ていますけど、ちょっとこれ、最後の回答になるかなと思うのですね。いろいろ困ったことを聞いて、最後、困ったことがない。

それから、「まなぶ」の6番、お金をどれぐらいまで払えますか。この金額を50円とか100円に設定した理由があるのか。何か50円と100円って、払える金額に50円ぐらいしか差がないのであれば、かえって選択肢は減らしたほうがいいのではないかなと思います。

次、「にぎわい」の2番です。よく使うメディアは何ですかというメディアなのですが、これは情報を入手するものを問うているのか、それとも本質的にツールとして使うものなのか。情報の入手であれば、よく使うメディアは何ですかというのはちょっと分かりにくいかなと思います。どうしてもフェイスブックとかインスタグラムとかは、情報を入手するというよりは、ある人にとったらコミュニケーションツールになるし、ある人にとったら情報入手ツールになる、そこら辺、何を意図しているのかは明確にしたほうがいいと思いますね。

そして、その他のところの質問項目ですが、うれしかったこと、楽しかったことというのが、似ているので一つでいいかなと思います。聞くのであれば、何につなげるのか、ちょっと意図が分からなかった。明確な質問がいいのかなと。

あと、基本事項のところに住み続けたいですかという項目が入っているのですが、こ

れは「くらす」に移動して、基本的には、もし、日本語ができる、できないというのを聞くのであれば、例えばもう完全にJLPT持っていますとかという、「まなぶ」のところに
入っている項目は基本事項に入れてしまって、その人の意志とか個人差が大きいようなものは質問項目を分けるみたいなの、ちょっと整理して。すみません、長くなりました。

○小田島座長 ありがとうございます。今いろいろご指摘ありましたところを事務局で整理をしていただければというふうに思います。

○高田委員 3ページの8、苫小牧市での生活はどうですかというところの3番目、食べ物・文化とあるのですが、生活であれば、言葉の使い分けですが、習慣のほうがいいのかと思うのですが。文化って、何かすごく大きいように感じるのです。苫小牧の文化って何って、違いがあるのかなというよりも、習慣上のほうのという言葉のほうがいいのかと思うのですが、どうですか。

○小田島座長 文化というよりも習慣ですね、言葉の違いですね。ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

○リリー氏 ほかの方の意見とかぶってしまうかもしれませんが、やっぱりこの質問の中で統一ができる質問がいいと思います。例えば、「まなぶ」、1-1と1-2、日本語能力の級を持っていますか、例えば、その二つの質問を統一して、何かN1、N2、N3、N4、N5で、6番目が持っていない。こういうふうにちょっとだけ、何か2という質問を統一して、もう少しアンケートは短くなると思います。

○小田島座長 はい。質問をもう一度整理してということですね。

○奥村委員 今に関連してですが、「まなぶ」のところでは日本語能力試験(JLPT)ですが、これ以外にも日本語試験がありますので、それは書けないのかというふうな質問もやっぱり出てくるのかなという気がします。

○小田島座長 そうですね。JLPT以外の資格についても記載できるような工夫が必要だということですね。大体いいところでしょうかね。

○奥村委員 あともう一ついいですか。「にぎわい」の5-2のところなのですが、4ページの5-2ですね。5-1で「ある」の場合、その日本人と会う回数はどのぐらいですかって書いてあって、最後に関わりはないというふうに、関わりはないという表現が日本的過ぎて、「会わない」とかいうふうに、もっと分かりやすくしてあげないといけないのかなというふうに思いますけどね。関わりはないというね、無視しているんだと、持ちたくないという。

○小田島座長 表現ですね。大体よろしいですか、外国人向けのアンケートについて。

それでは、次に、日本人向けアンケートについてご意見あればお願いいたします。

○笠原委員 外国人向けのほうは、大項目、「はたらく」「くらす」「まなぶ」、こういった方針に沿った質問なのですが、日本人向けのほうが、1枚目の裏面から、交流状況調査になって、その下、5番目ぐらいから、どちらかというと、今度、日本人側が学ぶ事項というのですかね、そういった項目になるかと思うので、何ていうのでしょうか、学ぶ

というカテゴリー分けをして、それで日本人と外国人向けのギャップを見れる方向がいいのかなという印象を受けました。

○小田島座長 日本人向けのアンケートについての大項目はそろえたほうが良いということですね。

○笠原委員 揃えられるのであれば、まあ、でも暮らすというか、暮らす、働くは、ちょっと日本人には適さないかなと思うのですが、学ぶというところでは、逆に言うと日本人側も、例えば7番目ですか、国際化推進事業、どんな活動をご存じですかというふうに、僕が書くとすれば、ほとんど分からないというのが印象ですので、そういったことよりは、その学ぶということで、ちょっと建設的なアンケートにしたほうが、ギャップが見えてくるのかなというふうに思います。

○小田島座長 はい、そうですね、ありがとうございます。いかがでしょうか。

○高田委員 要するに5番目になりますかね、一番専門なもので、先ほどお話しさせていただいた、外国人が地域に増えるということの原因とかをどこかでご存じですかみたいなところを書いていただければいいのかなと思います。

それこそ、様々な産業の人材の確保はここでも項目は出ているのですが、2040年問題、2045年問題とか、そういったところの社会保障の担い手は絶対少なくなるわけですから、そういったところも社会保障の制度に加入をしているというのは、基本的に今の法律では、国籍関係なく加入という、非常にそういうメリット性があると思うので、そこら辺をどんどん書いていただければ、そこもまた違うのかなと思います。

○小田島座長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○奥村委員 1枚目の意識調査の4-1ですかね、「あなたは、外国人と関わるにあたり、壁があると思いますか」というふうに、何か表現が硬いので、壁があるように思わせるような日本語で、関わることに壁がありますかとかね、何かもうちょっとソフトな、あるかないかだけを聞けばいいのかなって。「あたり」というと、もう既に壁がありますよ的なニュアンスが強いと思うのです。

その下の4-2は、4-1で「あり」の場合に、その他というのがあってもいいのかなというふうに思います。

そして、裏面に行きますと、これは6番以降で、丸を記入という表現なのですが、一つ選んで丸を記入、これ、丸で囲んでと、丁寧に書いてもらったほうが。丸を記入って、何か曖昧な、真ん中に丸つけられたらどうするのかという気がしております。

あと、交流状況調査の4番目の3、あなたは、今後、地域の外国人とどのような交流をしたいと思いますかの3番目で、「言葉を学んだり、子どもに学ばせたりしたい」というと、何かちょっと強制的なイメージがあって、随分、子どもに学ばせるために外国人がいるんだみたいな、何かちょっと誤解を招きそうな心配をしております。

ということと、あとは、6番ですかね、6番の当てはまるもの二つに丸をつけなさい、丸で囲みなさいにしたときに、何か二つという意味、意識がここだけはあるのかなという

のがちょっと分かればと思いました。以上です。

○小田島座長 はい、ありがとうございます。質問の聞き方ですね、あと、表現の仕方です。ちょっと正確な回答ができなくなる可能性があるよというところのご指摘でした。

ほかにいかがですか。ございますか、どうぞ、お願いいたします。

○瀬川委員 ちょっと教えていただきたいのが、この調査対象なのですけれども、13歳以上の無差別の抽出ということで、実際、自分の立場でいうと、中学生も対象になると思うのですが、そうなった場合、イメージなのですけど、この調査依頼というのは、どのような形で、保護者名で送られるのか、生徒名で送られるのかというのをちょっとお聞きしたかったですけれども。

○青山副主幹 個人名です。

○瀬川委員 個人名。であれば、アンケートの回収率を高めるために、そういう調査をしますよ、どんな形で外国人の方にもするのか分からないのですけど、事前にそういうことができれば、例えば、ごめんなさい、自分の立場だけで考えちゃうと、中学校長会のほうに、こういう実態調査があります、来た場合には、ぜひ協力をお願いしますというようなものを先に出しておく、回収率が高まるのかなと思っていました。

ただ、その生徒数がどの程度の人数になるか分からないのですけど、抽出だから、もしかしたらいらないかもしれないのですけど、いるとした場合、そういうふうには、やるのであれば私のほうでも協力することができますので、言っていただければなと思いました。

今みたいに個人名で送られるというのであれば、アンケートの中身になるのですけれども、6番の部分なのですが、これがいきなり中学生に送られても、なかなか答えられない部分なのかなということもありますので、回答の一つの最後に、分からないというような回答も入れてほしいなど。

あと、いろんな文章表現の点で、「地域や職場」ってなっているのですけど、「職場(学校)」とか、そこも考えていただければなと思いました。以上です。

○小田島座長 そうですね、13歳以上ですので、回答の表現を全員が該当するような表現が必要になってきますね。ありがとうございます。さあ、ほか、いかがですか。

○五十嵐委員 ここまでのところ、かぶっていたのですけれども、日本語がちょっと難しいんですね。何か文書も長くなって、質問文が難しい。

例えばですけど、2枚目の6番、あなたは、日本に住む外国人に関する次の(1)から(6)のという、すごく長い文章で、これだと丸で囲むので、次の(1)から(6)が外国人に関する意見です、それぞれの意見についてどう思いますか、1、〇〇、2、何々に丸をつけてくださいとかというふうに、もうちょっと分かりやすく区切って質問してあげると、先ほど言った13歳とか高校生でも分かるかなと思いました。

それと、もう一つは、具体例が示されている、括弧書きでと、具体例が示されていないところが結構ばらばらにあって、特に3枚目の中には、選択肢の後ろに括弧書きで具体例が示されているものと示されていないもの、同じ質問項目の中でもばらつきがあって、イメ

ーじしづらいのではないかなというふうに思ったので、これは何かそろえたほうがいいかなと思います。

○小田島座長 ありがとうございます。ほかにどうですか、よろしいですか。

○千寺丸委員 これは記名式ですか、無記名。

○青山副主幹 これは記名ではないです。

○千寺丸委員 QRについても。

○青山副主幹 ついていないですね。

○千寺丸委員 ついていない。それだとうちも協力できるかな、データを回収、いろんな団体とかにお願いして回収率を上げるということもできるかなと。

○小田島座長 さあ、大体よろしいですか、アンケートについては。

じゃあ、ちょっとアンケートについて、田村さんから一言。

○田村氏 もうあまり時間もないので。最初に、これも、こういうアンケートで、こういう目的でやるので、答えてもらったら必ず施策に反映させますから、しっかり答えてくださいねという、答えなきゃと思うような何か文章が最初に必要だろうなど。それもできれば封筒に書いておく、開けてくれないので、まず。封筒に、これ、大事だから、必ず開けてねみたい。あれですよ、QRコードも、もう封筒についている。何かこれは大事だ、答えなきゃと思ってもらえるような文言が最初に書かれてあるといいかなと思います。

特にそれは外国人の方の場合は、何て書いてあったら答えたいと思うのかということ、外国人の方に聞きながら表現を選んでいただくといいと思います。

それから、ほかの自治体でもよく似た質問もアンケートでされていると思いますので、そこと比較して、この分析に当たっていただくといいかなと思いますので、比較できるような選択肢になっているかということも、ちょっと改めて確認をしていただけると、より調査結果が今後に活かせるのではないかなと思います。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。先ほどのビジョンに続いて、アンケートでもたくさん意見が出ましたので、事務局も頑張ってまとめていただければと思います。

それでは、最後の次第4、その他として、事務局からご説明お願いいたします。

○浪岡主査 それでは、最後に、その他としまして、多文化共生にかかる事業の周知をさせていただきます。

30ページをご覧ください。本市の多文化共生社会の形成に向け、日本人と外国人が一緒に参加する事業としまして、国際化推進事業というものを展開しておりますが、その一つとしまして、8月27日に避難所体験を予定しております。こちら、本日参加いただいています、北海道多文化共生NETの五十嵐委員のほうを受託者になっておりますので、詳細についてご紹介いただければと思います。よろしく願いいたします。

○五十嵐委員 時間がないので手短かに。

避難所体験、8月27日日曜日、東小学校の体育館で実施します。去年も行いまして、資料にありますとおり、50名ほど去年は参加していただきました。今年は倍の100名

を目指しております。

外国人、皆さんご存じのとおり、田村先生のお言葉を借りたら、ストック情報が違います。災害に遭ったことのない人、地震を知らない人、これ、うちの留学生にもこういう人たくさんいます。そういう方と防災の知識を高めるだけではなく、顔見知りをつくるというか、あの人いたねということを知ってもらおうということで、ぜひ一人でも多くの方にお声がけいただいて、特に瀬川先生にもご協力いただいて、小学生ですとか、中学生ですとか、学生の方々に来ていただけると大変ありがたく思っております。皆さんのご協力をよろしく願いいたします。

○浪岡主査 ありがとうございます。小田島さんに返します。

○瀬川委員 ごめんなさいね、すみません、協力します。今日、遅れてきたのに、すみません。このチラシ、出ているものは、もう配布されているのですか。

○五十嵐委員 ホームページ上にアップはされているのですが、印刷したものもお渡しできますので、必要があれば。

○瀬川委員 苫小牧東小学校のほうには配付されているのですか。

○五十嵐委員 東小にはまだしてない。

○瀬川委員 いや、そういうところで、多分校区外からの学校での参加というのはなかなか難しいと思うのですが、東小学校の中で、東小学校の児童に対しての、このプリントを配付することについては、私のほうから柴田校長先生に頼むことはできます、言っていただければ。

○五十嵐委員 ありがとうございます。

○瀬川委員 ただ、もう時間が、夏休み明けになっちゃいますよね。22日が始業式なので、22日に渡して、27日来てくださいというのはちょっと乱暴かなとは思いますが、可能です。

○五十嵐委員 ありがとうございます。

○小田島座長 それでは、皆さん、今日の予定されていた次第は全て終わりました。どうもありがとうございました。ちょっとすみません、司会進行が下手で、時間過ぎてしまいましたけど。事務局にお返ししたいと思います。

○青山副主幹 すみません、皆様、ありがとうございました。宿題もいっぱいもらいましたので、宿題のほう、こちらのほうで整理しますが、また改めて皆様のほうにご連絡させていただきたいと思います。次回、10月開催予定としておりますので、その前に、また資料等を皆様の元に配付できればなというふうに思っております。

引き続き、事業実施に当たっては、皆様と一緒に進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

本日の会議はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。